高校への求人数は、１０年前と比べてぐっと増えました。
これも企業や事業所、関係機関の皆様のおかげと実感しています。
ありがとうございます。

私は、仕事がら企業の方たちのお話しをうかがう機会があります。
まずは会社概要、業務内容、勤務条件、求める人材像などをお聞きし、それから少し深く聞きたいことをたずねたりします。以前、本州のある金属加工メーカーの方とお話した時はこんな様子でした。

佐：チェーンはうちの自転車についてます。精密な部品ですよね。

金：そうなんです。よく聞いてくださいました。せっかくですからお見せしましょう。

言うなり担当の方はカバンから黒く光るチェーンを取り出しました。

佐：これは美しい。

金：そうでしょう？私も思います。試作中のもので、高速で回してもうるさくならないタイプです。設計と改良を何回もやりましたよ。

言葉のはしばしから自社製品への愛情を感じました。
苦労したけれど楽しいのか、楽しいから苦労などなんでもなかったのか。担当の方の背後にそんな生き生きとしたオーラが見えるようでした。

「職業選択」は就職希望者の目下のテーマですが、進学希望であってもいずれは取り組みます。３年以内に離職する生徒・学生がいるという話も聞きますが、生徒たちには、大変さの中から「やりがい」を見つけられるそんな仕事に出会ってほしいと思います。

「苦労したけれど楽しいのか、楽しいから苦労などなんでもなかったのか」まわりを見渡せばそんなゾーンに入っている大人たちが実はたくさんいると気づくはずです。
保護者の皆様、企業や事業所、関係機関の皆様、今後ともよろしくお願いいたします。

平成２８年１２月１日

北海道浜頓別高等学校長
佐々木　　淳

冬の使者オジロワシ～ウソタンナイ川にて